

順天堂医院ニュース 2026 NO.95

2026年度を迎えて — 院長報告 —

春の柔らかな日差しが心地よい季節となりました。新年度のスタートにあたり、皆様にご挨拶申し上げます。

本年度は、副院長の永原、齋浦、内藤、院長補佐の石島、安藤、松本の6名とともに新たな体制で歩みを進めてまいります。安全で安心な医療をお届けできるよう、病院一丸となって取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年4月の院長就任以来、当院では高度で専門的な医療を安全に提供することはもとより、皆様が少しでも快適に通院できる環境づくりに力を注いでまいりました。その一環として、AIやITを活用した「医療DX」を積極的に推進しております。ご自宅から事前に初診受付ができる「AIコンシェルジュ」、スマートフォンで検査結果確認や予約変更申請ができる「通院支援アプリ」、検査日程を調整できる「メディカル・コンシェルジュ」、待ち時間短縮につながる「ウォークスルー検査」のほか、「医療費あと払いクレジットサービス」や「お薬配送サービス」などを導入し、手続きの簡素化と負担軽減を図っております。

本年度はこれらの取り組みをさらに充実させ、特定機能病院として高難度医療と救急医療の両立を一層強化し、地域の医療機関との連携を深め、どのような時にも安心して頼っていただける病院であり続けたいと考えております。

「温もりを感じる信頼できる病院」を目指して、職員一同、皆様に寄り添う姿勢を大切に、心を込めて医療に取り組んでまいります。



順天堂大学医学部附属
順天堂医院

院長 山路 健

副院長ご挨拶

2025年4月より、副院長を務めております消化器内科の永原章仁です。山路健院長のもと、人間ドック、健康スポーツ室、超音波センター、診療機器、医療情報、先進医療などの分野を担当しております。高齢化が進む現在、健康を守り、疾患を早期に発見し、長く質の高い生活を支える医療の重要性はますます高まっています。順天堂医院では、そのような時代の要請に応えるべく、人間ドックをはじめとした予防医療の充実を図り、皆様の健康管理を支える体制づくりを進めています。また、医療を取り巻く環境が変化する中であっても、安全性と質を最優先に考え、医療機器や医療情報基盤の整備を着実に進めています。順天堂の理念である「不断前進」の精神のもと、患者さんとご家族に信頼される医療を提供できるよう、これからも病院全体で努力を重ねてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



副院長 永原 章仁

2026年4月より副院長を拝命いたしました、肝胆膵外科の齋浦明夫です。山路健院長のもと、主として外科診療の運営および高度医療体制の充実、医療安全の推進に携わってまいります。

近年、医療を取り巻く環境は大きく変化しており、外科医の減少、働き方改革への対応、医療の高度化・専門化など、多くの課題に直面しています。また、ロボット手術の普及や高齢化の進展に加え、海外からの患者さんを受け入れるインバウンド医療への期待も高まっており、安全で質の高い医療を効率的に提供できる体制づくりがこれまで以上に求められています。



副院長 齋浦 明夫

順天堂医院が高度医療機関として国内外の患者さんに信頼される病院であり続けるとともに、次世代の医師を育成する教育機関として発展していけるよう、各診療科・部門と連携しながら、より質の高い医療体制の構築に努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2025年4月より副院長を務めております、総合診療科の内藤俊夫です。これまで総合診療科において、原因不明の発熱や体重減少など幅広い診療に携わってまいりました。引き続き、感染症診療を中心に、予防接種を含めた感染症予防についてもご相談に対応しておりますので、お気軽にご相談ください。

順天堂医院は教育機関としての役割も担っており、臨床研修センター長として、患者さんの気持ちに寄り添った診療ができる医師の育成に尽力してまいります。また、医療サービス支援センターでは、地域の医療機関の先生方とより円滑な連携が図れるよう努め、医療保険室長としては、適切な医療費の請求が行えるよう各所と連携しながら進めてまいります。さらに、病院職員の健康管理の責任者として、すべての職員が安心して働き、患者さんが安心して受診できる環境の整備に努めてまいります。加えて、感染予防管理部を担当し、院内感染対策の強化と安全な医療提供体制の構築に取り組んでまいります。

山路院長のもと、より良い病院運営に努め、患者さんはもちろんのこと、職員も安心できる環境を築いてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。



副院長 内藤 俊夫

院長補佐ご挨拶

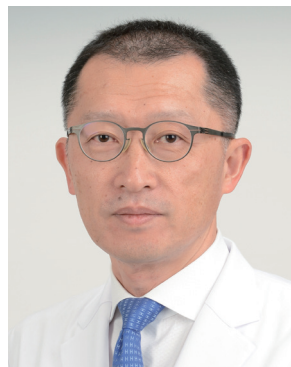
山路健院長のもと、院長補佐を務めます石島旨章です。

順天堂医院に国内外から受診される患者さんに最良の治療をご提供することが、われわれの使命です。その実現には、急速に進む環境変化に対応するため、職員が各所で日々改善を心掛けています。

また、整形外科・スポーツ診療科の科長としては、立つ・歩くといったヒトがもつ移動機能を司る骨・軟骨・靭帯・神経などからなる「運動器」の病気（疾患）や怪我（外傷）の診療にあたっています。長寿化が進むなか、「運動器」の機能低下は生活の質を大きく低下させます。

治療により機能改善を図り、生涯にわたり動き続けることを望む患者さんに寄り添った診療を行うとともに、予防にまで踏み込み、また将来の担う若手医師の育成も進めていきます。

「受診して良かった」、「必要な時はまた受診しよう」と感じていただける順天堂医院であるよう、日々努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



院長補佐 石島 旨章

山路院長のもと、2025年4月より院長補佐を務めております血液内科の安藤美樹です。2022年より順天堂医院の広報運営管理委員長を務め、多くの患者さんにとって必要な情報をわかりやすくお伝えし、その結果順天堂医院の魅力が広く伝わるような広報を心がけております。順天堂医院に来てよかったと皆様に思っただけのような病院となるよう、尽力したいと思っております。

私の専門の血液内科では、貧血や多血症などの良性疾患から、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液がんまで、幅広い疾患の診療を行っております。また、当院では細胞治療に力を入れております。27床のグレードの高い無菌室を完備して、移植治療、キメラ抗原受容体T細胞（CAR-T）療法、iPS細胞由来キラーT細胞の医師主導治験など、活発な診療を行っております。質の高い医療体制を整えておりますので、お気軽にご相談ください。どうぞよろしくお願いたします。



院長補佐 安藤 美樹

2026年4月より院長補佐を拝命いたしました耳鼻咽喉・頭頸科の松本文彦です。私は頭頸部癌（耳鼻咽喉科領域の悪性腫瘍）を専門とし、2025年4月に順天堂医院に頭頸部がんセンターを設立して、専門性の高い診療の実践に努めてまいりました。

順天堂大学が附属病院を「順天堂医院」と名づけているのは、病（やまい）ではなく、医、すなわち仁術が集まる場であるという意味がこめられています。日々の診療において、私が大切にしていることは、医療を通して患者さんの健やかな日常を取り戻し、心からの笑顔を引き出す事です。

そして、その理想を形にするためには、職員の皆さんが、誇りと喜びをもって働ける環境が不可欠であると考えています。職員のプロフェッショナリズムと笑顔がホスピタリティの源泉となり、患者さんへの笑顔と安心につながると信じています。そんな医院を山路健院長のもと皆さまと共に築いてきたいと願っております。どうぞよろしくお願いたします。



院長補佐 松本 文彦

この度、2026年1月1日付で順天堂大学大学院医学研究科腎臓内科学講座の教授を拝命いたしました。伝統ある本講座を支えてこられた諸先輩方の足跡を重んじ、順天堂医院「腎・高血圧内科」のさらなる発展に全力を尽くす所存です。

当科では、腎疾患に対し包括的かつ高度な専門医療を提供しています。検尿異常から発見されるIgA腎症等の慢性腎炎、生活習慣病に起因する慢性腎臓病（CKD）、多発性のう胞腎やファブリー病などの遺伝性疾患まで、対象は多岐にわたります。また、入院治療中の手術後や化学療法に伴う急性腎障害（AKI）、複雑な電解質異常への対応も重要な任務です。

末期腎不全に至った患者さんに対しては、血液・腹膜透析の導入に加え、泌尿器科と連携した腎移植管理を行っています。当院の大きな特徴は、透析患者さんが外科的治療等を受ける際の併診管理です。他科とシームレスに連携し、どのような合併症が生じても安心して治療を受けられる体制を整えております。また、難治性高血圧の精査・治療についても専門的アプローチを実践しています。

現在、わが国のCKD患者数は約2,000万人と推定される「国民病」です。私はその中でも、透析導入の主因である「糖尿病関連腎臓病」を専門としております。この病気はかなり進行するまで自覚症状が乏しく、一度慢性化すると改善や進行停止が非常に困難です。

だからこそ「早期発見・早期治療」が何よりも重要です。健康診断で尿異常や、血清クレアチニン値の上昇、eGFRの低下を指摘された際は、決して放置せずお気軽に当科をご受診ください。患者さん一人ひとりのQOLを守るため、誠心誠意取り組んで参ります。今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



腎・高血圧内科
合田 朋仁



このたび、2026年2月1日付で消化器内科学講座教授に就任いたしました。

消化器内科は、食道・胃・小腸・大腸などの消化管に加え、肝臓、胆道、膵臓といった幅広い臓器を診療対象とする、守備範囲の広い診療科です。当科は昭和43年の開講以来、歴代教授のもとで診療・教育・研究を積み重ねてまいりました。現在も各臓器別の専門グループが密に連携し、早期診断から内視鏡治療、薬物療法、さらには外科・



消化器内科
北條 麻理子

放射線科と協力した集学的治療に至るまで、患者さんにとって最善と考えられる医療の提供に努めております。

私はこれまで、*Helicobacter pylori* 感染症の診断・除菌治療および除菌不成功例に対し、適切な診断に基づく最適なレジメン選択に取り組むとともに、機能性消化管障害（Disorders of Gut-Brain Interaction）を中心とした消化管運動異常や症状発現機序の解明、そして臨床に直結する治療戦略の構築に取り組んでまいりました。症状の背後にある病態を丁寧に評価し、エビデンスに基づく個別化医療の実践を大切にしております。

消化器は多細胞生物の進化の初期から生命維持の中心を担ってきた重要な臓器系です。その機能の維持は、患者さんにとって大きな安心につながります。私たちはその本質的な役割を踏まえ、臓器横断的な視点から病態を総合的に捉えながら診療にあたっております。消化器疾患につきまして何かございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。今後ともよろしくごお願い申し上げます。





安全に輸血をおこなうために ～血液型検査を2回行う理由～

輸血は、ご本人と輸血製剤の血液型が一致していることがとても重要です。もし異なる血液型の血液が輸血されると、重い副反応が起こる可能性があります。そのため、正確に血液型を判定することが欠かせません。

血液型検査には、「採血管に検査ラベルを貼る」、「採血を行う」、「検査結果を登録する」など、いくつもの手順があります。これらの操作は、細心の注意を払って行っていますが、より安全に行うため厚生労働省の指針でも血液型は、「別の時間に採血した2つの血液で確認し、両方の結果が一致した場合にのみ確定する」と定められています。

順天堂医院では、皆様に安心して治療を受けていただけるよう、採血や輸血の際にバーコードによる電子認証やスタッフ2名での患者氏名の確認を徹底し、輸血事故の防止に努めています。

採血や確認作業が複数回になることがあり、ご負担をおかけしますが、安全な輸血のために欠かせない手順です。ご理解とご協力をお願いいたします。

1回目



名前は
順天太郎です
誕生日は
1月1日です



A型

2回目



名前は
順天太郎です
誕生日は
1月1日です



A型

一致した場合
確定



更新（再認定）手続きをお忘れなく！

指定難病や障害などの医療費助成の受給者証には**有効期間があり、更新（再認定）手続きが必要です**。有効期間が切れてしまった場合、受給資格を喪失し医療費の助成が適切に受けられなくなってしまうため、必ず有効期間内に更新手続きを行なうようにしましょう。

✿更新（再認定）手続きが必要な制度の例

	有効期間	ポイント
難病医療費助成制度	1年	有効期間満了日の3ヶ月前より手続きが可能。 ※各自治体より更新のお知らせが届く場合が多いですが、必ずご自身の受給者証を見て有効期間を確認し、手続き漏れのないようにしましょう。
小児慢性特定疾病医療費助成制度	1年	
自立支援医療 （精神通院医療）	1年 ※1年毎の更新の他、 2年に1回診断書の提出が必要。	
自立支援医療 （育成医療・更生医療）	3ヶ月～1年。 個々のケースにより異なる。	
特定疾病療養受療証 （マル長）	* 70歳未満の方 →1年 * 70歳以上の方 →有効期間無し	原則手続きは不要 ※70歳未満の方については、有効期間内に新しい受給者証が郵送されます。
人工透析のマル都医療券 【東京都にお住まいの方】	1年	有効期間満了日の2か月前までに手続きが必要。
心身障害者医療費助成制度 （マル障）	1年 ※東京都の場合毎年 9月～翌年8月末	原則手続き不要 ※有効期間内に新しい受給者証が郵送されます。
子ども医療費助成制度 （マル乳・マル子・マル青）	1年 ※東京都の場合毎年 10月～翌年9月末	
ひとり親家庭等医療費助成制度 （マル親）	1年 ※東京都の場合毎年 1月～翌年12月末	



手続きに診断書等が必要な場合、文書の作成には**数週間の時間を要するため**、早めに文書受付（1号館1階）にて作成申込みをお願いいたします。



花粉症と食事について

花粉症は免疫機能の過剰反応によって起こるため、免疫機能の乱れを引き起こす要因として、日々の食事が大きく関わります。

特に、免疫細胞の集中している腸内環境を整えることが大切とされています。ヨーグルト、納豆、味噌などの発酵食品や食物繊維・ビタミン・ポリフェノールを含む野菜や果物、海草は、免疫バランスの安定が期待できる食品です。また青魚に含まれる EPA・DHA には炎症を抑える作用があり、花粉症の不快な症状の緩和につながると考えられています。一方で、肉の脂身やバターなどの飽和脂肪酸を多く含む食品、アルコールの摂りすぎは、炎症を助長し、症状を悪化させる可能性があるため注意が必要です。



体に必要な栄養素を偏りなく摂取するためにも、主食・主菜・副菜をそろえた食事を心がけ、体の内側から花粉症対策を行いましょう。



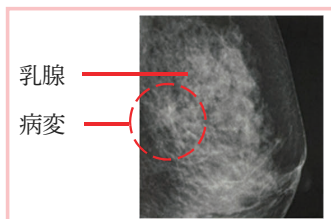


乳腺領域におけるトモシンセシスのご紹介

【従来のマンモグラフィの課題】

現在、日本人女性の9人に1人が乳がんと診断を受けていると言われております。また、乳がんは、早期に発見することが重要な病気です。

マンモグラフィ検査とは、乳がんを発見するために乳房内の病変（しこりや石灰化など）や乳腺の乱れを観察する検査です。しかし、正常の乳腺と病変は画像上、いずれも白くうつるため、乳腺の量や病変の位置によっては見つけづらくなる場合があります。



【トモシンセシスについて】

そこで、撮影装置を少しずつ回転させ、多方向から撮影を行なうことで様々な角度からの画像を取得し、その病変と乳腺の重なりが少ない角度からの観察を可能にしたのがトモシンセシスという撮影方法です。

また、立体的な観察も可能になるため、3D マンモグラフィとも呼ばれており、病変の見落としを防ぎ診断の精度の向上に役立っています。

また、当医院では専門認定を持った技師が多く在籍し、放射線科医による画像診断と連携したチーム医療により、早期発見に取り組んでいます。

マンモグラフィ	トモシンセシス
<p>乳腺に重なり、病変が見つけづらい</p>	<p>病変が鮮明で、見つけやすい</p>

...乳房 (Breast)

 ...乳腺 (Breast tissue)

 ...病変 (Lesion)

...乳房 (Breast)

 ...乳腺 (Breast tissue)

様々な角度からの画像を取得できる



サイバー攻撃への備え：電子カルテ停止時の対策訓練を実施しました

近年、医療機関を狙ったサイバー攻撃が深刻さを増しています。医療システム（電子カルテなど）を安全に守ることは、病院にとって重要な課題のひとつです。当院では、万が一の大規模なシステム停止という事態に備え、定期的な訓練を実施しています。訓練では、リアルな状況を想定して、異常を見つけたら速やかに『院内放送』で全館に状況を伝えつつ、『緊急時の対応』に切り替える体制を整えています。

システム停止という非常事態に直面した際、患者さんの最も近くで不安を和らげ、多くの場面でご案内や対応を担うのが、私たち看護師です。看護師は、現場の状況を把握しながら、医師、薬剤師、事務員ら多職種と連携するための中心的な役割を果たします。診療においては、電子カルテから、紙の伝票や手書きのカルテへ切り替えなければならない事態も想定されます。そのような困難な状況下でも、混乱を最小限にし、患者さんの安全を最優先に診療を継続するためには、万が一に備えた訓練と準備が欠かせません。

また、大規模なシステム障害時には、診療の安全を一番に守るため、診療規模を縮小する運用へのご協力をお願いする場合もございます。当院では、強固なシステムセキュリティを構築・維持する一方で、サイバー攻撃の脅威に対し、迅速に対処し安心できる医療提供を維持するため、病院全体で対策と訓練に取り組んでいます。何卒、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



誰ひとり取り残さない医療
誰もが安心して学び働ける病院・大学

順天堂人の意識

「三無主義」の学風
出身校、国籍、性による差別を認めない
多様性の尊重



順天堂大学医学部附属順天堂医院

〒113-8431 文京区本郷3-1-3

TEL : 03-3813-3111 (大代表)

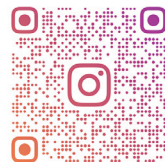
編集・発行 事務部 管理課
(2026年4月発行)



順天堂医院HP

順天堂大学医学部附属順天堂医院
公式 Instagram

Instagramは右のQRコードから
アクセスできます



JUNTENDOIIIN